

2016年1月17日開催
第10回シンポジウムでのアンケートへの回答

本年1月の第10回シンポジウムも、おかげさまで参加人数も多く、今回も総じて評価が高く、アンケート調査でも好評を得ることができ、これも皆さまの積極的なご参加とご協力のおかげと感謝しております。ただし、毎回ごわずかですが厳しいご意見も当然承っており、これらにつきましては、少数意見ということでないがしろにするのではなく、これらの意見こそ重要と考え、今まで通り真摯に対処していく所存です。

アンケートの中には、本学会の主旨とは異なるご意見のために本学会からの回答として対応できないものもございます。そのためすべてにお答えしているわけではないことをまずはお承知おきください。しかし、このアンケートにお答えいただくことは、今後の学会運営やシンポジウム、セミナーの開催にとっても重要なものでありますので、より多くの方から闊達なご意見を今後も頂戴したいと思っております。

これらのアンケート結果への回答は、毎回学会開催後1～2か月以内に増田会長をはじめとする学会運営委員にて会合を開き作成しております。アンケートへの回答は要点のみ学会開催時に発表させていただき、その他はHP上に更新しております。

アンケートへの回答は、ご意見ご批判に対してのみ返答しておりますが、一方ではご評価いただいたものや好意的なご意見はかなり多くいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

加えて、すでに周知されていることと理解しておりますが、本学会の方針や主旨、過去の講演で解説している内容などに対するご意見、ご質問への回答は、毎回同じような内容になってしまうため、ある程度まとめさせていただき、これもHP上に更新したいと考えております。したがって、学会参加前に本学会の方針や主旨をご理解いただくと共に過去のアンケート回答やシラバス、ホームページ掲載の「シンポジウム・ベーシックセミナーについて」、「臨床免疫検討会とは」、「技能講習 Q&A」などをできるだけご一読ください。

<アンケート結果の紹介>

○興味深かった講演

犬アレルギー検査の臨床応用② 2015年改訂版	27
NKT細胞を介するTreg誘導とその臨床応用	17
アレルギーによるアレルギー免疫療法で呼吸器症状が改善した気管支炎の犬の一例	17
第8回臨床免疫検討会	15
難治性の食物アレルギーと犬アトピー性皮膚炎を併発した犬において的確な検査による診断・治療により改善した1例	7

<感想>

- ・とても勉強しやすい環境で、一部難易度の高い内容もありましたが、内容もわかりやすく良かったと思います。
- ・今回初めて参加しました。すべて興味深く拝聴しました。今後は毎回参加したいと思います。
- ・このまま継続してほしい。

<技能講習および技能講習制度について>

○今のままで良い。

○認定のハードルが高い。

技能講習制度は、これを履修した獣医師が論理性と整合性のある系統だったアレルギー性疾患の診療を行う技術を習得することが目標であり、さらにその知識と診療技術を獣医業界全体に、そして次世代に伝達することを目指しております。

<臨床免疫検討会について>

○今回は、あえて答えの出ない、あるいは答えを出す必要のないテーマ「細胞マーカーと液性マーカーの有用性について」を取り上げました。日常の診療では、その利点や特性、技術的な問題など、細部まで考察せずに独自の経験やルール、あるいは利便性など科学的な論拠ではなく、事情や都合で選択してしまうことも少なくない。そこで、それぞれのマーカーについての復習と論理的な解釈を踏まえ、ご自身の検査体制を再認識していただく見直す機会となれば、と企画いたしました。結果的に、内容についての賛否を問わせていただきましたが、主旨を良くご理解された的確な回答をいただきました。

○細胞マーカー 11票

- ・これは基本であり、必須項目であり最重要と思う。
- ・病院内で精度を上げていくことができ、他検査まで発展できると思われる。
- ・特異性が高く、病因に近い状態を知ることができる。
- ・スクリーニング検査や病状の把握、長期管理も考えると、液性マーカーに利点があるように思われる。

○液性マーカー 13 票

- ・細胞マーカーでは、検体の取り扱いや検査法、技術、結果考察、解釈など差異が出やすく、熟練が必要と考えられる。
- ・病状の変化への感度や反応速度などが優れている。

○それぞれの回答に共通したご意見

- ・どちらの検査が有用というのではなく、利点・欠点をよく理解し、かつ病状や病態に合わせた選択をするべきである。

<今後取り上げてほしい内容>

○自己免疫性疾患について

第 10 回ベーシックセミナーにて、技能講習や教育講演、臨床免疫検討会で取り上げる予定です。

○ヤヌスキナーゼ阻害薬について

第 10 回ベーシックセミナーにて、取り上げる予定です。

○いろいろな免疫疾患についての教育講演

- 臨床分野のお話が聞きたい。
- 猫のアレルギー検査やアレルギー疾患の治療について。
- 各種疾患のサイトカインネットワークやサイトカインの役割
- 症例報告で取り上げられることの多いアレルギー関連の呼吸器疾患について
- 海外の講師の教育講演
- 腸内細菌叢について
- 免疫染色について

<本会へのご要望>

○症例報告はそれぞれ興味深いですが、学会運営側で一度監査したほうが良いのではないのでしょうか。

講演要旨を含む症例報告の内容は、学会長および学会運営委員にて事前に査読をしておりますが、スライド原稿やご講演内容につきましては、あくまで演者に一任しております。

本会では、学会での症例報告の場を広く門戸を開き、学会発表や講演の未経験の先生方や若手の獣医師のひとつの挑戦の機会とも捉えております。

また、講演内容だけでなく講演全体についての活発な議論を行っていただきたいと考えております。そのような場こそ、演者および学会参加者のさらなる研鑽に役立つのではないかと考えております。

○録画させていただきたい。

過去に教育講演や技能講習の在宅学習者向けに、本会にて DVD 作成を行った経緯がございますが、基本的に録画はご遠慮いただいております。

以前にもお答えしておりますが、資料やスライドなどには、未発表データや著作権に関わる物もあり、シラバスにもあえて記載しない場合や印刷物として配布が出来ないものも多ございます。先生方に最新の情報をご提供するための研究内容を含む講義では、これらの対処が一般的な対応であるため、録画につきましても印刷物と同様のものと考え対応させていただいております。この点ご理解頂ければと思います。

○テキストを事前に入手したい。スライド原稿がほしい。

事前学習が可能であれば、より理解度が深まるとのご提案と理解いたしました。この点につきましては、前向きに今後の検討課題とさせていただきます。

スライド原稿（カラー）は、学会会員にかぎり、学会開催後に本会 HP からダウンロードできます。尚、これらのデータは、HP からの転用は不可となりますので、ご了承ください。